

<略歴>

2000年作業療法士免許取得。卒後、精神科病院で3年勤務後、現在に至る。

当院では、腫瘍全般、腱板断裂、上肢外傷、ハンドセラピー、神経難病、中枢疾患等多くの疾患群、小児から老年期含めた年齢層に対し対応

2008年に、医療リンパドレナージ取得、2019年よりPTOT協会主催実技講習会講師

九州大学医学部非常勤講師、九州大学保健学科非常勤講師

国立大学リハビリテーション協議会学術部委員

所属学会：高次脳機能学会、日本心リハ学会、日本認知行動療法学会、

日本緩和医療学会、日本乳がん学会、国立大学リハ協議会

<講義概略>

大学病院の役割は、「臨床・教育・研究」の3本柱です。臨床場面では診断や新しい治療法の開発・決定など、教育においては多職種教育に加え職員は先端医療を学ぶ機会にも恵まれています。研究では多くの分野でさまざまな視点で進められている事への参画が可能です。この3本柱における、当院の実情とリハとのかかわりを踏まえた上で、大学病院で終末期に関わる意義や役割についても説明できればと考えています。造血管腫瘍や小児がんの実情、先日発表した認知行動療法学会での内容も報告出来たら行いたいと思います。